

19年度は縄文遺跡群

文化審 佐渡鉦山、20年度以降に

世界遺産推薦候補

文化庁は23日、文部科学省で文化審議会世界文化遺産部会を開き、2019年度の世界文化遺産の国内推薦候補選定について「北海道・東北の縄文遺跡群」（北海道、青森、岩手、秋田）を基本とする方針を確認した。19年度の審議対象は縄文遺跡群のみとなる見通しで、「金を中心とする佐渡鉦山の遺産群」（佐渡市）の国内推薦の実現は20年度以降となる。

文化審議会は昨夏、縄文補に選定したが、「1国1自然遺産候補の奄美大島遺跡群を18年度の推薦候一件」の推薦枠を巡り、世界徳之島、沖繩島北部および



島の文化審議会が23日、2019年度の世界遺産の推薦候補を「北海道・北東北の縄文遺跡群」とする方針を確認したことに對し、佐渡市の「金を中心とする佐渡鉦山の遺産群」の関係者は「慌てず活動を続けたい」と冷静に受け止めた。ただ、推薦実現が延びるうちに他地域から有力な候補が名乗りを上げないか、懸念する声も上がった。昨年7月、同審議会が佐渡鉦山のシンボル「道遊の割戸」を2018年7月、佐渡市相川地区

「慌てず取り組む」 有力候補名乗りに懸念も

島内関係者ら

西表島（鹿児島、沖繩）と競合。最終的に政府は奄美・沖繩の推薦を決めた。一連の経過を踏まえ、文化審議会は、18年度の縄文遺跡群の選定内容を引き継ぐことを基本とし、準備状況などを確認した上

佐渡鉦山を「縄文遺跡群推薦が得られなくなり残に次ぐ案件」とする見解を示していたため、島内関係者には既に「縄文遺跡群が19年度の国内推薦を受けるのでは」との見方が出ていた。佐渡市の市民団体「佐渡を世界遺産にする会」の永松武彦会長代行（44）は、同審議会の方針について「そうなるかと思っていた。慌てず粛々と、登録運動を進めていく」と語った。佐渡鉦山の一つ、西三川砂金山にある笹川集落の住民グループ「笹川の景観を守る会」の金子一雄会長（59）は「19年度の

で推薦するかどうか、今夏の審議で最終決定することとした。関連して、19年度は佐渡鉦山を含め、縄文遺跡群以外の候補を募らない異例の措置を取る。

文化庁は「縄文遺跡群は、既に推薦に値すると評価を受けており、『ゼロベース』から見直すことはしない」と説明した。一方、佐渡鉦山に関して、18年度の推薦を見送られた際に、文化審議会から示された「縄文遺跡群に次ぐ案件として有力な候補となり得る」とする見解は維持された。

推薦が得られなくなり残に次ぐ案件」とする見解を示していたため、島内関係者には既に「縄文遺跡群が19年度の国内推薦を受けるのでは」との見方が出ていた。佐渡市の市民団体「佐渡を世界遺産にする会」の永松武彦会長代行（44）は、同審議会の方針について「そうなるかと思っていた。慌てず粛々と、登録運動を進めていく」と語った。佐渡鉦山の一つ、西三川砂金山にある笹川集落の住民グループ「笹川の景観を守る会」の金子一雄会長（59）は「19年度の